
純愛ルール

宇治宮王子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

純愛ルール

【Nコード】

N89530

【作者名】

宇治宮王子

【あらすじ】

学校のトイレで自分を売る女の子に対する男二人の純朴を描く。短い作品で直接的な表現はありませんが、一応【R-15】にします。苦手な方も閲覧注意。

結婚式場前の駅を出た。

華やかな式場では、大衆に向けブーケを投じる新婦の姿が映る。

新婦は妊娠しているようだった。

新郎は笑っていた、ただ大声で笑っていた。

俺はその非現実に関心を装いながら、奥の細道を進んだ。

アルフレンド高校はその先にある。

時刻は正午を過ぎていた。

食堂に入ると、幼なじみの赤川裕次郎がいた。

赤川裕次郎は髪を金色に染め、耳と鼻にピアスをつけている。
スラッと伸びた長い足を机の上に乗せ、チョココロネを食べていた。

三ツ矢サイダーをガブ飲みしてから、俺は赤川裕次郎の目を見た。

「もうすぐ冬休みだから、また流行ってるらしい」

そう言って、赤川裕次郎はチョココロネの尻尾を食べたあと、昼寝を始めた。

俺は興味のないフリをして、窓の汚れを見つめていた。

旧校舎2Fの男子トイレに彼女はいる。

決まった曜日、決まった時間に彼女はいる。

彼女は赤川裕次郎の幼なじみである。

そこで彼女は彼女を売っていた。

菓子折り缶の中に札束と小銭が散乱していた。

やはり、流行ってるらしい。

【一発 9980円】

安っ（笑）。

彼女の中が白色で染まったとき、結婚式場の鐘が虚しく鳴った。

俺はとなりのトイレで射精した。

俺と赤川裕次郎は童貞だ。

（後書き）

現実の中に起こりえる非現実とは、規則・法律によって制御される。しかし規則・法律は自分の心にもあるはずだ。この男二人のように純粋な心（自分ルール）を持っていたいものです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8953o/>

純愛ルール

2010年11月14日02時28分発行